西尾市古新田遺跡出土瓦の再検討

—胎土分析の結果から—

小嶋廣也

古新田遺跡は、愛知県西尾市志貴野町宮前に所在する古代から中世にかけての複合遺跡である。矢作川と矢作古川の分岐点付近の矢作川左岸に位置している。遺物に凹面に布目痕の残る瓦が多く出土した。この矢作川流域には多くの古代寺院跡や瓦窯跡が知られており、本遺跡のすぐ南側に「志貴野廃寺」推定地や大郷瓦窯跡が位置している。報告書作成に際しこれらの瓦との比較検討をするために胎土分析を行ったが、時間的余裕がなく分析結果を十分に検討することができなかった。今回良き機会を得て分析結果をもう一度見直すことができた。小稿によって分析を行った各寺院跡・瓦窯跡を見ていくことで、古新田遺跡から出土した古代瓦について考えてみたいと思う。

1 はじめに

古新田遺跡は、西尾市志貴野町宮前に所在する古代から中世にかけての複合遺跡である。検出された竪穴住居に代表されるように古代集落を中心とする遺跡で、寺院跡や瓦窯跡とは直接には関係がない。しかし、調査の際に包含層や中世の井戸・溝の中から凹面に布目の残った古代瓦が多く出土した。丸瓦・平瓦が中心であるが、軒丸瓦の瓦当面と思われる瓦片や瓦塔なども確認されている。遺跡の南側には「志貴野廃寺」推定地や、やや離れて大郷瓦窯跡が位置しており、本遺跡周辺で古代瓦が採取されることは以前から知られていた。

昨年度、『古新田遺跡』の報告書を作成した中で、古新田遺跡で出土した瓦が何を意味するのかを少しでも明らかにするために古代瓦の胎土分析を実施した。分析は古新田遺跡だけではなく、豊田市の伊保白鳳寺跡・神明瓦窯跡、岡崎市の北野廃寺跡、安城市の寺領廃寺跡、西尾市の雨堀瓦窯跡、幡豆町の北迫瓦窯跡・鳥羽神宮寺跡など、本遺跡が所在する矢作川流域の古代寺院跡や瓦窯跡を中心に資料を選定した。また、本遺跡出土の軒丸瓦と類似する軒丸瓦が出土している豊川市の三河国府跡や、寺領廃寺跡で出土した軒平瓦と同笵と思われる軒平瓦が出土している豊橋市の市道遺跡など、豊川流域の古代寺院跡の資料も比較資料として含めている。胎土分析は、株式会社第四紀地質研究所に依頼した。報告書作成中は時間的な制約もあって結果を掲載することが精一杯で、検討を加えることができなかった。今回、再考をする機会を得た。

2 分析資料

資料の選定には、高浜市やきものの里かわら美術館の天野卓哉氏にご協力いただいた。基本的に丸瓦・平瓦を中心に、その中でも須恵質・土師質のもの、凸面の調整に違いのあるもの（ナデや叩き目調整など）を主に選び出している。報告書では東三河の豊川流域の資料を含めて 253 点を行っているが、今回対象となるものは矢作川流域に所在する古代寺院跡と瓦窯跡で、全部で 213 点となる（表 1）。内訳は、軒丸瓦 4 点、軒平瓦 2 点、丸瓦 91 点、平瓦 116 点である。また、凸面の調整別に見てみると、丸瓦ではナデ（ナデ消しを含む）と思われるものを含めて 83 点、縄目叩きが 7 点、格子目と思われるものが 1 点であり、平瓦ではナデ（ナデ消しを含む）と思われるものを含めて 40 点、縄目叩きが 53 点、格子目叩きが 18 点、平行叩きが 4 点、不明が 1 点（凸面が剥離しているため調整が確認できない）である。中でも丸瓦は、行基葺丸瓦を中心にしているが、玉縁式丸瓦を 5 点含んでいる。以下、分析を行った古新田遺跡を含む 18 ヶ所の寺院跡や瓦窯跡を簡単に紹介する（図 1）。なお、各資料の詳細につ

いては、報告書（小嶋編 2003）を参照していただきたい。（註１）

伊保白鳳寺跡（豊田市保見町）

発掘調査は行われていないが、伊保川の河川付け替え工事の際に瓦列や瓦塔が出土したことから寺院跡と考えられている。資料は丸瓦８点・平瓦 12 点の計 20 点で、平瓦の凸面調整は縄目叩きが多く格子目叩きは少ないようである。

牛寺廃寺跡（豊田市野見町）

昭和 48（1973）年に発掘調査が行われているが、面積が僅かであったため遺構の性格や伽藍配置については不明な点が多い。資料は丸瓦４点・平瓦６点の計 10 点で、平瓦の凸面調整は格子目叩きがほとんどである。

神明瓦窯跡（豊田市鴛鴨町）

発掘調査は行われていないが、段丘崖下の水路から大量の瓦が出土していることから瓦窯跡と推定されている。採集された瓦の中に北野廃寺で出土した軒丸瓦と同じ文様をもつ軒丸瓦が確認されたことから、北野廃寺に瓦を供給していた瓦窯の１つと考えられている。資料は丸瓦９点・平瓦６点の計 15 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面調整に叩き調整は見られなかった。

舞木廃寺跡（豊田市舞木町）

塔跡が国指定史跡となり、塔心礎を中心として礎石が残存している。平成 15（2003）年にトレンチ調査が行われているが、発掘調査は実施されていない。資料は丸瓦３点・平瓦４点の計７点で、凸面の調整は平瓦で格子目叩きが見られる。

勧学院文護寺跡（豊田市寺部町）

現在の随応院境内に礎石が１つ残存し、文護寺跡のものといわれる丸瓦・平瓦が１点づつ伝えられている。資料は丸瓦１点・平瓦２点の計３点で、平瓦で凸面の調整に格子目叩きが見られる。

下り松瓦窯跡（西加茂郡三好町）

昭和 40（1965）年頃に発掘調査が行われ、須恵器を併焼した無段の窖窯であることが確認されている。伊保白鳳寺で出土した軒丸瓦と同笵の可能性の高い軒丸瓦が出土していることから、伊保白鳳寺に瓦を供給していた瓦窯であると考えられている。資料は軒丸瓦１点・丸瓦３点・平瓦８点の計 12 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整で縄目叩きが見られる。

北野廃寺跡（岡崎市北野町）

西三河最古といわれる古代寺院で、国史跡に指定されている。昭和 39・54（1964・1979）年に発掘調査により遺構から四天王寺式伽藍配置が確認され、現在史跡公園として整備されている。資料は軒丸瓦２点・丸瓦８点・平瓦８点の計 18 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整に、縄目叩きと格子目叩きのものが見られた。

真福寺東谷遺跡（岡崎市真福寺町）

北野廃寺が真福寺に移転したと考えられていたが、昭和 54（1979）年の発掘調査により別の寺院であることが確認されている。資料は丸瓦５点と平瓦５点の計 10 点で、平瓦の凸面調整で、縄目叩きと格子目叩きと思われるものが見られた。

丸山廃寺跡（岡崎市丸山町）

正式な発掘調査は行われていないが、校舎造成工事の際に大量の瓦が出土したことから寺院跡と考えられている。資料は丸瓦３点・平瓦３点の計６点で、平瓦の凸面調整で、縄目叩きが見られる。

別郷廃寺跡（安城市別郷町）

発掘調査は行われていないが、古代瓦が散布していることから寺院跡と推定されている。資料は丸瓦４点・平瓦５点の計９点で、凸面の調整では丸瓦で縄目叩き、平瓦では平行叩きが見られる。

大久根遺跡（安城市小川町）

発掘調査は行われていないが、瓦がまとまって確認されていることなどから瓦窯跡と推定されている。資料は丸瓦３点・平瓦３点の計６点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整に叩き痕は確認できていない。

寺領廃寺跡（安城市寺領町）

昭和 32・平成 13（1957・2001）年の発掘調査により遺構が確認され東大寺式伽藍配置であることが推定されているが、寺院の領域は確定できていない。資料は丸瓦 10 点・平瓦 10 点の計 20 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整で縄目叩きが見られる。

（註１）各寺院跡・瓦窯跡については個別には記載しないが、報告書や後述の参考文献を参照している。

雨堀瓦窯跡（西尾市米津町）

立地条件などから瓦窯跡と推定されているが、発掘調査が行われないまま消失した。同笵の瓦は確認されていないが、寺領廃寺に瓦を供給していたのではないかと推定されている。資料は丸瓦３点・平瓦３点の計６点で、平瓦の凸面調整で縄目叩きが見られる。

志貴野遺跡（西尾市志貴野町）

昭和 63・平成元（1988・1989）年の発掘調査で奈良時代から平安時代までの集落遺跡であることが確認され、古代瓦が出土している。資料は丸瓦６点・平瓦６点の計 12 点で、平瓦の凸面調整に縄目叩きと格子目叩きが見られる。

古新田遺跡（西尾市志貴野町）

本遺跡で、平成 12 年 (2000) 年の発掘調査で奈良時代までの集落跡が確認され、古代瓦や瓦塔が出土している。西尾市教育委員会の調査では、瓦は数点しか出土していない。資料は丸瓦６点・平瓦 14 点の計 20 点で、平瓦の凸面の調整には縄目叩きと格子目叩きが見られる。

北迫瓦窯跡（幡豆郡幡豆町）

土地改良事業に伴い平成４（1992）年に試掘調査が行われ、灰原の一部が確認され軒瓦を含む瓦が出土している。出土した軒丸瓦の中に同笵の軒丸瓦があることから、鳥羽神宮寺に瓦を供給していたと考えられている。資料は軒平瓦１点･丸瓦５点･平瓦11点の計17点で､丸瓦･平瓦とも凸面の調整で縄目叩きが見られる。

寺部堂前遺跡（幡豆郡幡豆町）

付近の住民が瓦を持ち込んだことにより寺院跡と推定されるようになり、寺部廃寺ともいわれている。平成 14（2002）年にトレンチ調査が行われている。資料は軒平瓦１点･丸瓦５点･平瓦５点の計 11 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整で縄目叩きが見られる。

鳥羽神宮寺跡（幡豆郡幡豆町）

現在の神明社境内周辺から瓦が出土することが知られており、寺院跡と推定されているが発掘調査は行われていない。資料は軒丸瓦１点・丸瓦５点・平瓦５点の計 11 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整で縄目叩きが見られる。

以上が、胎土分析を行った寺院跡・瓦窯跡である。これ以外にも、豊田市の駒場瓦窯跡、知立市の慶雲廃寺跡、岡崎市の大門遺跡・高隆寺

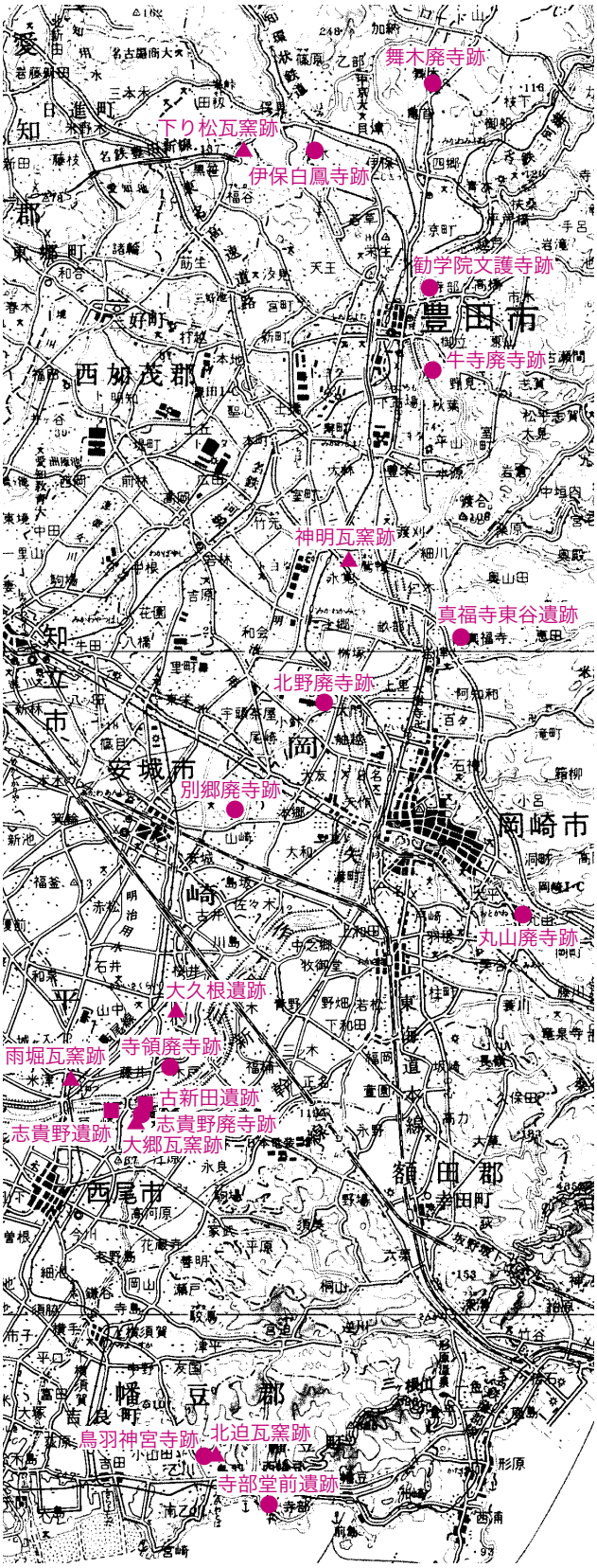

図１ 胎土分析を実施した寺院跡・瓦窯跡位置図
（1:200,000）（国土地理院「豊橋」20 万分の１より転載）

跡、安城市の塔の元遺跡、西尾市の志貴野廃寺跡・大郷瓦窯跡等が知られているが、今回は分析をすることはできなかった。ここで、古新田遺跡と近接する志貴野廃寺跡と大郷瓦窯跡を紹介しておく。

志貴野廃寺（西尾市志貴野町）

広い範囲から古代瓦が採集できることや礎石と推定される石が存在することなどから、寺院跡と推定されている。発掘調査は実施されていない。

大郷瓦窯跡（西尾市小島町）

かつて土取りの際に１ヶ所から多量の瓦が出土したことやその立地などから、瓦窯跡と推定されている。発掘調査が行われないまま消失した。寺領廃寺出土の軒丸瓦と同笵の軒丸瓦が確認されていることから、寺領廃寺に瓦を供給していた瓦窯と考えられている。また、その位置関係から志貴野廃寺にも瓦を供給していたのではないかといわれている。

今回の胎土分析では、Ｘ線回析と化学成分分析の２つの分析を行っている。分析の結果については膨大なデータがセンターに保管されているので、詳しくはそれを参考にしていただきたい。それらの結果から、どのようなことが考えられるのかを見ていきたい。しかし、寺院跡や瓦窯跡では発掘調査が行われている事例が極めて少なく、資料も表採資料が多く含まれていることを予め断っておきたい。正確性にやや欠ける面があるかもしれないが、ある程度の傾向を見いだすことができるのではないかと思う。

３ Ｘ線回析

(1) 実験条件

Ｘ線回折に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はＸ線回折によった。測定には日本電子製 JDX-8020 Ｘ線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度：0.02゜、計数時間：0.5 秒。

(2) タイプ分類

Ｘ線回析に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字は、チャートの中に現れる各鉱物に特有のピークの強度を示す。その結果から井上氏は、胎土を９つにタイプ分類されている。（註２）なお鉱物は、モンモリロナイト（Mont)、雲母類（Mica)、角閃石（Hb)、緑泥石（Ch）である。

Ａタイプ：Hb １成分を含み、Mont,Mica,Ch の３成分に欠ける。

Ｂタイプ：Mica,Hb,Ch の３成分を含み、Mont １成分に欠ける。

Ｃタイプ：Mica,Hb の２成分を含み、Mont,Ch の２成分に欠ける。

Ｄタイプ：Mica,Hb,Ch の３成分を含み、Mont １成分に欠ける。組成的にはＢタイプと類似するが検出強度が異なる。

Ｅタイプ：Mica,Hb の２成分を含み、Mont,Ch の２成分に欠ける。組成的にはＣタイプと類似するが検出強度が異なる。

Ｆタイプ：Mica,Ch の２成分を含み、Mont,Hb の２成分に欠ける。

Ｇタイプ：Mica １成分を含み、Mont,Hb,Ch の３成分に欠ける。

Ｈタイプ：Mont,Mica の２成分を含み、Hb,Ch の２成分に欠ける。

Ｉタイプ：Mont,Mica,Hb,Ch の４成分に欠ける。高温で焼成されているため、鉱物は分解してガラスに変質したもので、４成分は検出されない。

この分類によれば、Ａタイプには、丸瓦４点・平瓦２点の計６点で、北迫瓦窯跡の丸瓦・平瓦が主体となる。Ｂタイプには丸瓦のみ３点で、北迫瓦窯跡の丸瓦が主体となる。Ｃタイプには、軒丸瓦１点・丸瓦７点・平瓦 12 点の計 20 点で、寺部堂前遺跡・鳥羽神宮寺跡の丸瓦・平瓦が主体となる。Ｄタイプには平瓦のみ２点である。Ｅタイプには、丸瓦２点・平瓦３点の計５点である。Ｆタイプには、丸瓦３点・平瓦６点の計９点で、牛寺廃寺跡の平瓦が主体となる。Ｇタイプには、丸瓦 30 点・平瓦 36 点の

(註２) 井上氏の報告書に基づく。

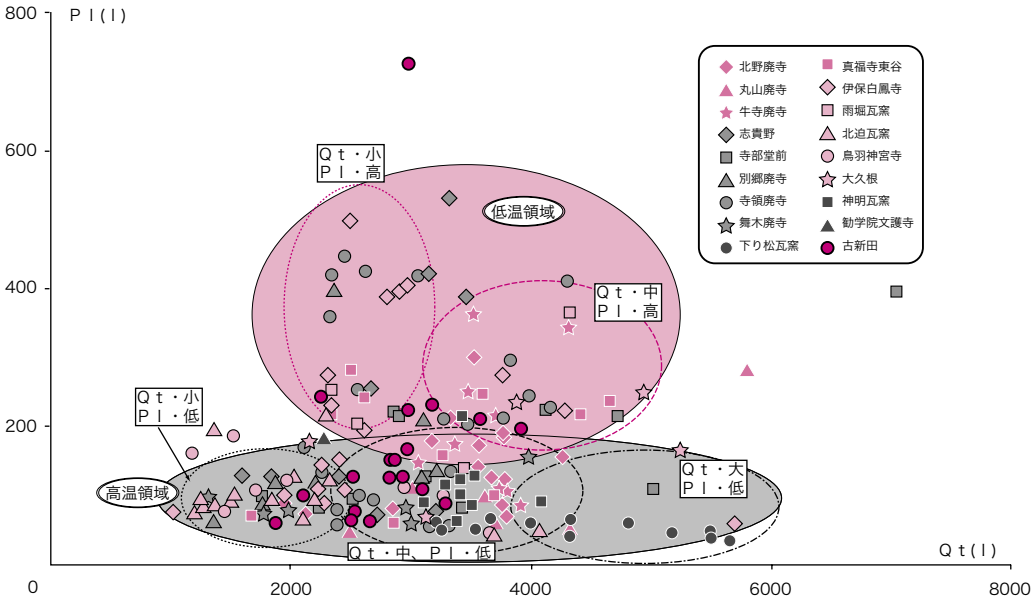

図2 Qt—Pl 図 (総合、報告書より転載、一部改変)

計 66 点で、北野廃寺跡・真福寺東谷遺跡・別郷廃寺跡・寺領廃寺跡・神明瓦窯跡・古新田遺跡の丸瓦・平瓦が主体となる。Hタイプは、丸瓦・平瓦が各 1 点の計 2 点である。Ⅰタイプには、軒丸瓦 3 点・軒平瓦 2 点・丸瓦 41 点・平瓦 54 点の計 100 点で、ほとんどの瓦が含まれているが、北野廃寺跡・伊保白鳳寺跡・丸山廃寺跡・舞木廃寺跡・下り松瓦窯跡・志貴野遺跡・古新田遺跡の丸瓦・平瓦、神明瓦窯跡の丸瓦、北迫瓦窯跡の平瓦が主体となり、軒丸瓦・軒平瓦のほとんどが含まれている。9 つのタイプのうち、高温で焼成され 4 成分が検出されないⅠタイプが最も多く、全体の 46.9%を占める。次いで、雲母類（Mica）の 1 成分が検出されるGタイプが 31.0%、雲母類（MIca）・角閃石(Hb)の 2 成分が検出されるCタイプが9.4%を占め、この 3 試料で全体の 87.3%を占めている。これ以外のA、B、D、E、F、Hの 6 タイプでは全体の 12.7%を占めるのみである。

(3) 石英（Qt）–斜長石（Pl）の相関について

胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は、粘土の材質、焼成温度と大きな関わりがある。これにより胎土を分類することができる。図 2 の Qt – Pl 図（総合、丸瓦・平瓦別は図 3 ）に示すように、石英（Qt）の強度が小さい領域から大きい領域にかけて Qt：小、Qt：中、Qt：大、斜長石（Pl）の強度が低い領域から高い領域にかけて焼成温度の低い Pl：高、焼成温度の高い Pl：低に分類されている。（註 3 ）

Qt： 小・Pl： 高 – Qt が 2000 ～ 3200、Pl が 200 ～ 550 の領域に分布する。

Qt： 中・Pl： 高 – Qt が 3100 ～ 5200、Pl が 200 ～ 400 の領域に分布する。

Qt：小・Pl：低 – Qt が 800 ～ 2600、Pl が 50 ～ 200 の領域に分布する。

Qt：中・Pl：低– Qt が 2500 ～ 4400、Pl が 50 ～ 200 の領域に分布する。

Qt：大・Pl：低– Qt が 3600 ～ 6000、Pl が 50 ～ 200 の領域に分布する。

その他：上記の分類に入らないものが「その他」として分類されている。古新田遺跡– 5 は Pl が高、丸山廃寺跡– 4 、寺部堂前遺跡– 5 は Qt が大で異質である。

これによれば、「Qt：小・Pl：高」には、丸瓦 10 点・平瓦 16 点の計 26 点で、伊保白鳳寺跡・寺領廃寺跡の丸瓦・平瓦と、真福寺東谷遺跡・雨堀瓦窯跡の平瓦が主体となる。「Qt：中・

(註 3) 註 2 に同じ。

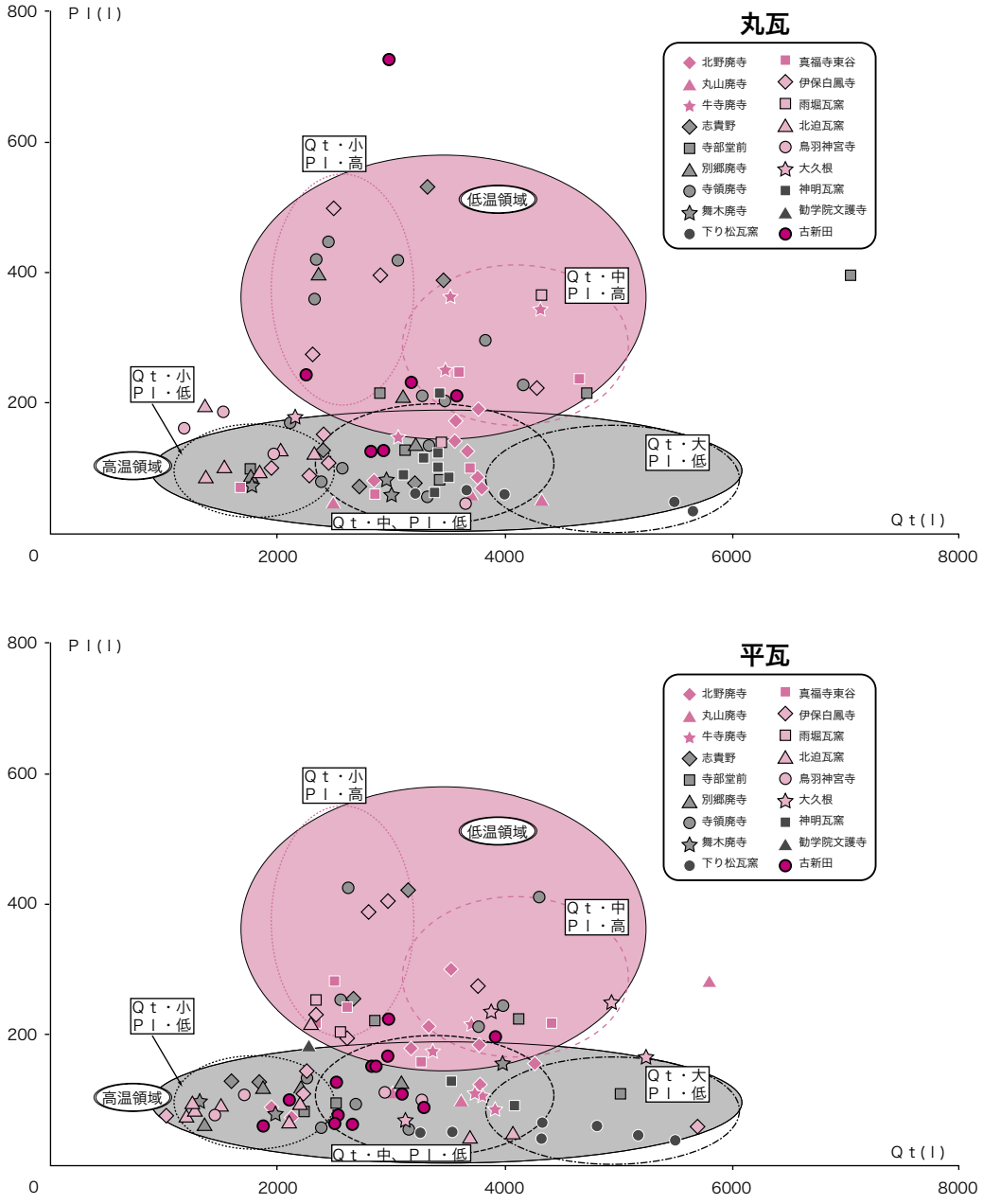

図3 Qt—PI 図（平瓦・丸瓦、報告書より転載、一部改変）

Pl：高」には、軒丸瓦 1 点・丸瓦 13 点・平瓦 14 点の計 28 点で、寺領廃寺跡・真福寺東谷遺跡・牛寺廃寺跡の丸瓦・平瓦と、北野廃寺跡の平瓦が主体となる。「Qt：小・Pl：低」には、軒平瓦 1 点・丸瓦 24 点・平瓦 36 点の計 61 点で、伊保白鳳寺跡・北迫瓦窯跡・鳥羽神宮寺跡・別郷廃寺跡・志貴野遺跡の丸瓦・平瓦と、舞木廃寺跡・古新田遺跡の平瓦が主体となる。「Qt：中・Pl：低」には、軒丸瓦 3 点・丸瓦 36 点・平瓦 41 点の計 80 点で、北野廃寺跡・丸山廃寺跡・神明瓦窯跡・鳥羽神宮寺跡の丸瓦・平瓦と、舞木廃寺跡・牛寺廃寺跡の丸瓦、別郷廃寺跡・古新田遺跡の平瓦が主体となる。「Qt：大・Pl：低」には、軒丸瓦 1 点・丸瓦 3 点・平瓦 8 点の計 12 点で、下り松瓦窯跡の丸瓦・平瓦が主体となる。これ以外に、「Qt：小中・Pl：高」には、丸瓦 2 点・平瓦 1 点の計 3 点で、すべて志貴野遺跡の瓦である。「その他」に分類されたものが、丸瓦 2 点・平瓦 1 点の計 3 点である。このうち、一番多いのは「Qt：中・Pl：低」の瓦

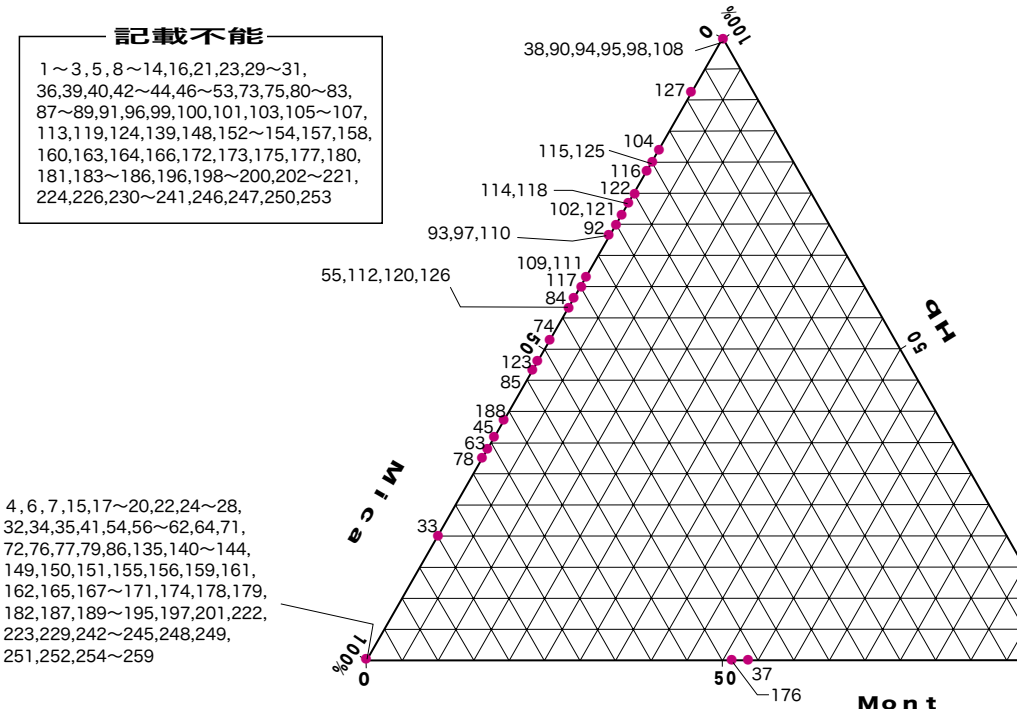

図４ Mont—Mica—Hb 三角ダイヤグラム (報告書より転載、一部改変)

で 37.6％、次いで「Qt：小・Pl：低」の瓦で 28.6％であり、この２つで全体の 66.2％を占めている。また、石英（Qt）・斜長石（Pl）を別々に見てみると、「Qt：小・中」の瓦が混入される砂の量が比較的少ない瓦は全体の 93.0％とその大半を占めている。「Pl：低」の焼成ランクが高い瓦は、全体で 71.8％を占めている。

(4) 小結

図４の Mont – Mica – Hb 三角ダイヤグラムを見ると、３つの成分を含まないとして記載不能とされた瓦が多く見られるが、これは高温で焼成されたことで鉱物がガラスに変質したためと考えることができる。これ以外の大部分は、雲母類（Mica）によって分類が可能であることがわかる。雲母類が花崗岩の特徴的な鉱物であることから、ある程度まとまった範囲の中で瓦が作られていたことを示めしていると考えられる。この中で、雲母類が 100％の瓦は、丸瓦 33 点・平瓦 41 点の計 74 点である。北野廃寺跡・真福寺東谷遺跡・神明瓦窯跡・牛寺廃寺跡・寺領廃寺跡・別郷廃寺跡・古新田遺跡の丸瓦・平瓦、伊保白鳳寺跡・雨堀瓦窯跡・志貴野遺跡の丸瓦、舞木廃寺跡・丸山廃寺跡の平瓦を見ることができる。丸瓦のうち 32 点はナデ調整（ナデ消しを含む）で、残る１点は縄目叩き調整である。平瓦のうちナデ調整（ナデ消しを含む）の瓦は 18 点で、縄目叩き 13 点、格子目叩き８点、平行叩き２点となっている。

また、雲母類（Mica）が 100％の瓦 74 点をタイプ別に見てみると雲母類（Mica）の１成分が検出される G タイプがほとんどであるが、雲母類（Mica）・角閃石（Hb）の２成分が検出される F タイプが８点（丸瓦３点・平瓦５点）含まれている。石英（Qt）–斜長石（Pl）別に見てみると、「Qt：小・Pl：高」には、丸瓦６点・平瓦８点の計 14 点（18.9％）である。「Qt：小・Pl：低」には、丸瓦２点・平瓦７点の計９点（12.2％）である。「Qt：中・Pl：高」には、丸瓦 10 点・平瓦９点の計 19 点（25.7％）である。「Qt：中・Pl：低」には、丸瓦 13 点・平瓦 15 点の計 28 点（37.8％）である。「Qt：小中・Pl：高」には、丸瓦のみ１点（1.4％）、「Qt:大・Pl:低」には、平瓦のみ１点（1.4％）、「その他」には、丸瓦・平瓦が各１点の計２点（2.7％）である。全体の比率から見てみると、「Qt：中・Pl：低」が多いことには変わらないが、「Qt：小・Pl：高」の比率が減少し「Qt：

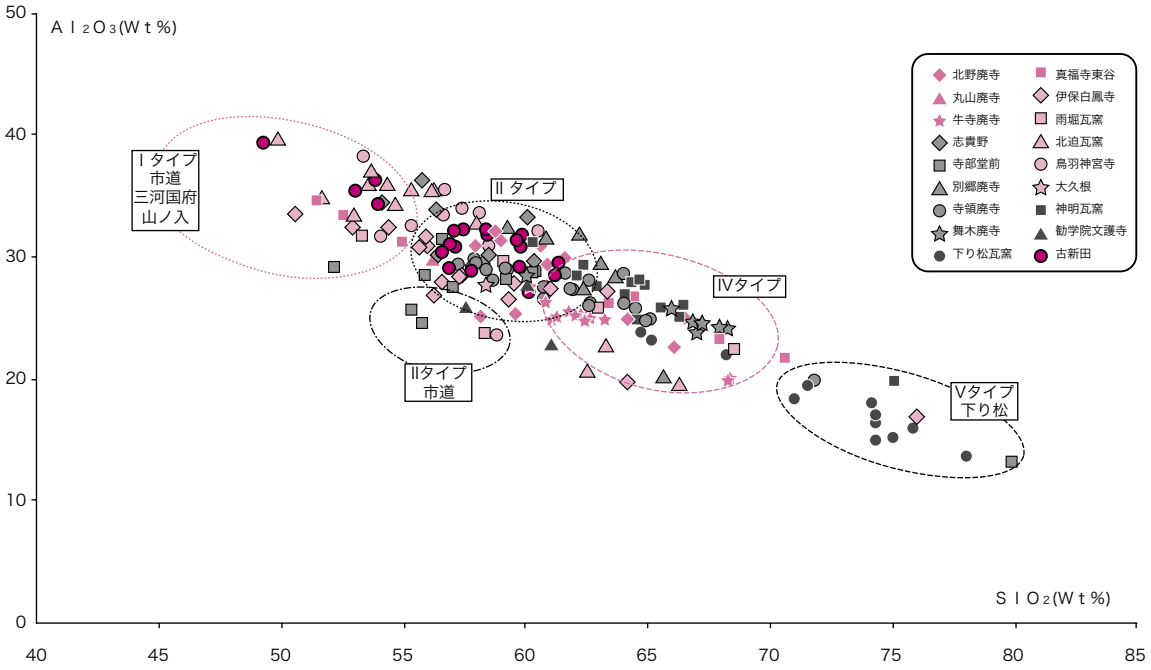

図5 SiO_2—Al_2O_3図（総合、報告書より転載、一部改変）

中・Pl：高」が増加していることが確認できる。これは、焼成ランクが低い瓦が多いことを示している。ただし、焼成ランクの高低については、同じ窯においても窯内に詰められた段階で焚き口に近いか遠いかで違いが生じるとも考えられ、一概に焼成温度の違いだけで分類することが可能であるのか疑問が残る。同じタイプならば、焼成ランクの違いだけで分類するのは好ましくないと思われる。

3 化学成分分析

(1) 実験条件

化学成分分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーテングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧：15kV、分析法：スプリント法、分析倍率：200倍、分析有効時間：100秒、分析指定元素10元素で行った。

分析結果は酸化物として、ノーマル法（10元素全体で100％となる）で計算し、化学成分分析表を作成している。その分析表に基づいて$SiO_2-Al_2O_3$図、$Fe_2O_3-Na_2O$図、K_2O-CaO図、TiO_2-MnO図を作成し、瓦を元素の面から分類している。ここでは、組成分類の基本となっている$SiO_2-Al_2O_3$図を中心に見ておく。

(2)$SiO_2-Al_2O_3$の相関について

図5の$SiO_2-Al_2O_3$図（総合、丸瓦・平瓦別は図6）に示すように、瓦はSiO_2が低い領域から高い領域に向かって、Ⅰ～Ⅴタイプの5タイプに分類されている（表1）。（註4）

Ⅰタイプ：SiO_2が43～56%、Al_2O_3が28～40%の領域に分布する。

Ⅱタイプ：SiO_2が53～60%、Al_2O_3が18～28%の領域に分布する。

Ⅲタイプ：SiO_2が55～68%、Al_2O_3が24～35%の領域に分布する。

Ⅳタイプ：SiO_2が60～70%、Al_2O_3が18～30%の領域に分布する。

Ⅴタイプ：SiO_2が70～82%、Al_2O_3が12～22%の領域に分布する。

（註4）註2に同じ。

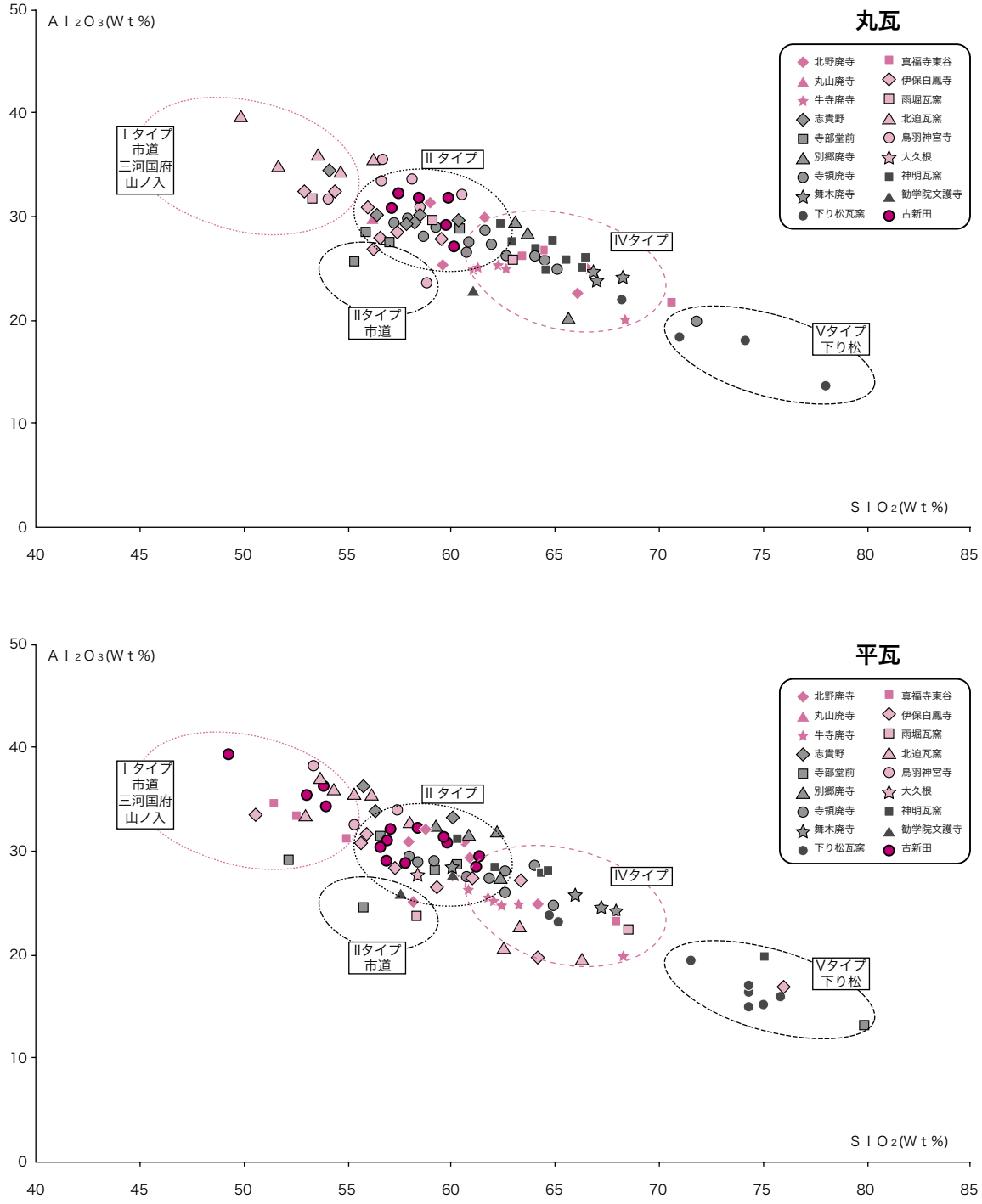

図６ SiO₂—Al₂O₃図（丸瓦・平瓦、報告書より転載、一部改変）

Ⅰタイプには、丸瓦８点・平瓦17点の計25点で、伊保白鳳寺跡・志貴野遺跡・北迫瓦窯跡の丸瓦・平瓦、真福寺東谷遺跡・古新田遺跡の平瓦が主体となる。Ⅱタイプには、丸瓦１点・平瓦２点の計３点のみである。Ⅲタイプには、軒丸瓦３点・軒平瓦１点・丸瓦49点、平瓦68点の計121点で、北野廃寺跡・丸山廃寺跡・伊保白鳳寺跡・寺領廃寺跡・大久根遺跡・志貴野遺跡・寺部堂前遺跡・鳥羽神宮寺跡・古新田遺跡の丸瓦・平瓦、真福寺東谷遺跡・雨堀瓦窯跡の丸瓦、牛寺廃寺跡・勧学院文護寺跡・別郷廃寺跡・神明瓦窯跡の平瓦が主体となる。

Ⅳタイプには、軒平瓦１点・丸瓦 30 点・平瓦 21 点の計 52 点で、北野廃寺跡・舞木廃寺跡・神明瓦窯跡の丸瓦・平瓦、牛寺廃寺跡・別郷廃寺跡の丸瓦、雨堀瓦窯跡・北迫瓦窯跡の平瓦が主体となる。Ⅴタイプには、軒丸瓦１点・丸瓦３点・平瓦８点の計 12 点で、下り松瓦窯跡の丸瓦・平瓦が主体となる。５つのタイプのうち一番多いのはⅢタイプの瓦で、56.8％を占めている。次いでⅣタイプが 24.4％を占め、この２つのタイプで全体の 81.2％を占めている。

(3) 小結

各寺院跡・瓦窯跡の瓦を $SiO_2 - Al_2O_3$ 図で分類されたタイプ別に見てみると、丸山廃寺跡の瓦は１タイプ、牛寺廃寺跡・舞木廃寺跡・勧学院文護寺跡・下り松瓦窯跡・北野廃寺跡・別郷廃寺跡・大久根遺跡・志貴野遺跡・鳥羽神宮寺跡の瓦は２タイプ、神明瓦窯跡・真福寺東谷遺跡・寺領廃寺跡・雨堀瓦窯跡・古新田遺跡の瓦は３タイプ、伊保白鳳寺跡・北迫瓦窯跡・寺部堂前遺跡の瓦は４タイプに分かれている。これらのタイプ数の違いが意味するものは何であろうか。単純に複数の瓦窯から瓦が供給されたと考えることができるし、寺院が長期間存在していたために創建時の瓦以外に補修用の瓦が新たに搬入されたとも考えることができる。表採資料が多いこともあり詳しいことはわからないが、北野廃寺跡や寺領廃寺跡の例などから後者であった可能性が高いと思われる。

また、Mont－Mica－Hb 三角ダイヤグラムで雲母類（Mica）が 100％の瓦 74 点だけを見てみると、Ⅰタイプには、丸瓦２点・平瓦５点の計７点（９．５％）である。Ⅱタイプには丸瓦のみ１点（１．４％）である。Ⅲタイプには、丸瓦 16 点・平瓦 27 点の計 43 点（５８．１％）である。Ⅳタイプには、丸瓦 13 点・平瓦８点の計 21 点（２８．４％）である。Ⅴタイプには丸瓦・平瓦が各１点で計２点 (2.7%) である。これを全体と比較してみると、Ⅰ・Ⅴタイプがやや減少し、Ⅲ・Ⅳタイプが増えていることが確認できる。これはⅠ・Ⅴタイプの瓦が高温で焼かれているため、鉱物が分解しガラスに変質している瓦が多いことが影響しているのかもしれない。

4 まとめ

(1) 胎土分析の結果について

古新田遺跡より出土した瓦の分析と周辺地域の瓦の分析結果を取りまとめたものが表２の組成分類表に示してある。これは化学成分分析による $SiO_2 - Al_2O_3$ の相関でⅠ～Ⅴの５つのタイプに分類したものを、Ｘ線回析による石英（Qt）－斜長石（Pl）の相関を加味して細分し、表２に示すように全体で瓦を 43 タイプに分類されている。（註５）43 タイプのうち、軒丸瓦は３タイプ・軒丸瓦は２タイプ・丸瓦は 18 タイプ・平瓦は 20 タイプにそれぞれ分類されている。今回分析を行った寺院跡・瓦窯跡毎に、２つの分析により得られたタイプ分類と組成分類について見ていきたい。

伊保白鳳寺跡　タイプ分類では、丸瓦は４タイプ、平瓦は３タイプに分類されている。組成分類では、丸瓦は４タイプ、平瓦は６タイプに分類されている。しかし、焼成ランクが異なるためにいくつかに分類されているが、化学組成的には類似性が高いといえる。

牛寺廃寺跡　タイプ分類では、丸瓦・平瓦ともに３タイプに分類されており、雲母類（Mica）・角閃石（Hb）の２成分が検出されるＦタイプが目立つ。組成分類では、丸瓦は２タイプ、平瓦３タイプに分類されているが、伊保白鳳寺跡同様化学組成的には類似性が高いといえる。また、丸瓦はⅣタイプ・平瓦はⅢタイプと区別されており、瓦の種類により供給元が違う可能性も考えられる。

神明瓦窯跡　タイプ分類では、丸瓦で４タイプ、平瓦で２タイプに分類されている。組成分類では、丸瓦は３タイプ、平瓦４タイプに分類されているが、丸瓦・平瓦ともにⅣタイプがその大半を占めていることから、化学組成的には類似性が高いといえる。北野廃寺の瓦の１つのタイプと同じであり、北野廃寺に補修用の瓦を供給した窯跡と考えられる。

舞木廃寺跡　タイプ分類では、丸瓦で１タイプ、平瓦で２タイプに分類されている。組成分

(註５)(註６)註２と同じ。

類では、丸瓦は２タイプ、平瓦は３タイプに分類されているが、平瓦１点（Ⅲタイプ）を除けばⅣタイプのみとなり、化学組成的には類似性が高いといえる。

勧学院文護寺跡　資料数は３点と少ないが、タイプ分類では丸瓦・平瓦ともに１タイプ、組成分類でも丸瓦・平瓦ともに１タイプのみに分類されている。瓦の種類による区別はなさそうである。

下り松瓦窯跡　タイプ分類では、丸瓦・平瓦ともに１タイプのみである。組成分類では、丸瓦は２タイプ、平瓦は３タイプに分類されているが、そのほとんどがⅤタイプで「Pl：低」という焼成温度が高い瓦であり、他の瓦とは明らかに異なっていることがわかる。軒丸瓦についても同様のことがいえる。この瓦窯から伊保白鳳寺に瓦が供給されていたと考えられているが、今回の結果からは共通点が少ないように思われる。（註６）

北野廃寺跡　タイプ分類では、丸瓦は３タイプ、平瓦は２タイプに分類されている。組成分類では、丸瓦は３タイプ、平瓦は４タイプに分類されているが、焼成ランクが異なるだけで大きくⅢ・Ⅳの２つのタイプに分けられる。２点の軒丸瓦はともにⅢタイプで、丸瓦や平瓦と区別して考えることはできないと思われる。

真福寺東谷遺跡　タイプ分類では、丸瓦は２タイプ、平瓦は１タイプのみに分類されている。Ｇタイプで雲母類（Mica）の強度が高いものがあり、他の瓦とはやや異なっている。組成分類では、丸瓦は４タイプ、平瓦は３タイプに分類されているが、焼成ランクが異なるだけで、丸瓦はⅢ･Ⅳの２つのタイプ、平瓦はⅠ･Ⅲ･Ⅳの３つのタイプに分けられる。位置的に近い北野廃寺跡の瓦に分類的には近いが、平瓦のⅠタイプは異質と思われる。

丸山廃寺跡　タイプ分類では、丸瓦では１タイプのみ、平瓦では２タイプに分類されている。Ｇタイプで雲母類（Mica）の強度の高いものがあり、他の瓦とはやや異なる。組成分類では、丸瓦は１タイプ、平瓦は２タイプに分類されており、丸瓦・平瓦ともほぼまとまりをもっていると思われる。

別郷廃寺跡　タイプ分類では、丸瓦・平瓦とも２タイプに分類されている。組成分類でも丸瓦・平瓦とも２タイプに分類されている。丸瓦と平瓦は、焼成ランクが異なるものの別々のタイプと考えられる。

大久根遺跡　タイプ分類では、丸瓦は２タイプ、平瓦は３タイプに分類されている。組成分類でも、丸瓦は２タイプ、平瓦は３タイプに分類されているが、丸瓦・平瓦ともにⅢ・Ⅳの２つのタイプが見られ、瓦の種類による区別はなさそうである。

寺領廃寺跡　タイプ分類では、丸瓦は２タイプ、平瓦は３タイプに分類されている。平瓦に、モンモリロナイト（Mont)･雲母類（Mica）の２成分が検出されるＨタイプが１点確認され、やや異質である。組成分類では、丸瓦は５タイプ、平瓦は６タイプに分類されている。焼成ランクの違いを考慮に入れても、丸瓦は３タイプ、平瓦は２～３タイプになると思われる。他の寺院跡に比べてタイプ数が多く、分散する傾向がみられる。

雨堀瓦窯跡　タイプ分類では、丸瓦は２タイプ、平瓦は３タイプに分類されている。平瓦に雲母類（Mica）・角閃石（Hb）の２成分が検出されるＣタイプが１点確認されている。組成分類では、丸瓦は２タイプ、平瓦は３タイプに分類されている。丸瓦・平瓦ともにタイプ数が多く、１つの瓦窯としては異質と思われる。この点をふまえると、丸瓦・平瓦ともに寺領廃寺跡の瓦と共通するタイプが見られることから、寺領廃寺に瓦を供給していた窯跡である可能性は高いと思われる。

志貴野遺跡　タイプ分類では、丸瓦は３タイプ、平瓦は４タイプに分類されている。雲母類（MIca）・角閃石（Hb）の２成分が検出されるＣ･Ｅタイプと、雲母類（Mica)･角閃石（Hb)･緑泥石（Ch）の３成分が検出されるＤタイプが見られる。組成分類では、丸瓦で３タイプ、平瓦で５タイプに分類されているが、それぞれ大きくⅠ・Ⅲの２つのタイプと考えることができる。

北迫瓦窯跡　タイプ分類では、丸瓦・平瓦とも３タイプに分類されている。角閃石（Hb）の１成分が検出されるＡタイプや雲母類（Mica）・角閃石（Hb）・緑泥石（Ch）の３成

分が検出されるＢタイプが目立っている。角閃石(Hb)の強度の高いＣタイプの瓦が１点ある。組成分類では、丸瓦で２タイプ、平瓦で５タイプに分類され、Ｉタイプが半数以上を占めている。軒平瓦はⅣタイプで、丸瓦と平瓦は別のタイプと考えられる。タイプ分類・組成分類ともに他の寺院跡・瓦窯跡とは異質である。

寺部堂前遺跡　タイプ分類では、丸瓦は３タイプ、平瓦は２タイプに分類されているが、角閃石（Hb）の強度の高いＣタイプの瓦が目立っている。組成分類では、丸瓦は４タイプ、平瓦は５タイプに分類されているが、丸瓦はⅢタイプの１つのタイプであるのに対し、平瓦はⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴの４つのタイプに分けられ特異である。また、軒平瓦はⅢタイプである。

鳥羽神宮寺跡　タイプ分類では、丸瓦・平瓦ともに３タイプに分類されている。北迫瓦窯跡・寺部堂前遺跡と同様、角閃石（Hb）の強度の強いＣタイプの瓦が目立っている。組成分類では、丸瓦は２タイプ、平瓦は３タイプに分類されているが、ほとんどがⅢタイプである。また、軒丸瓦はタイプ分類は異なるが、組成分類では丸瓦・平瓦と同様にⅢタイプである。

以上、古新田遺跡を除く 17 ヶ所の寺院跡・瓦窯跡をそれぞれ見てみると、ある程度の傾向をつかむことができる。神明瓦窯跡・北野廃寺跡・下り松瓦窯跡・丸山廃寺跡・北迫瓦窯跡などのようにある程度のまとまりがあるものと、寺領廃寺跡・雨堀瓦窯跡・寺部堂前遺跡などのように分散する傾向の強いものとがあることがわかる。これが意味するところは何であろうか。まとまりのみられるものは、１つの窯から瓦が供給され短期間しか存在しなかった、逆に分散傾向の強いものは、長期間継続していたために複数の窯から瓦が供給されたためと考えることができるのではないだろうか。また、１つの窯をみてもいくつかのタイプが見られる。長期間操業していくなかで、原料の粘土が変化したり、砂の混合比が変化したり、製作技法が変化したり、職人が変化したりと、さまざまな要因を想定することができる。今回の分析において、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦という瓦の種類による胎土の違い、凸面の調整による胎土の違い、丸瓦で行基葺丸瓦と玉縁式丸瓦の胎土の違いを明らかにすることを主眼としていたが、今回の分析だけでは不十分であり、まだまだ資料数が不足していると実感した。さらなる胎土分析の積み重ねが必要である。

(2) 古新田遺跡出土の古代瓦

最後に古新田遺跡の分析結果を見ておく。タイプ分類では、丸瓦･平瓦ともに雲母類（Mica）の１成分が検出されるＧタイプと、高温で焼成されたため４成分が検出されないＩタイプの２つに分類される。この２つのタイプで今回分析を行った瓦全体の約 78％を占めている。組成分類では、丸瓦は３タイプ、平瓦は６タイプに分類される。丸瓦・平瓦ともに概ねⅢタイプでまとめられるが、丸瓦ではⅡタイプが、平瓦ではＩタイプの瓦が確認されている。胎土分析を行った井上氏によれば、「寺領廃寺の瓦類は大きく分けて３種類あり、傾向としては異質である。（中略）古新田遺跡の瓦類は寺領廃寺跡の瓦類と類似する傾向が認められ、３種類とも同じ領域にあり、関連性が伺われる。」と指摘されている。（註７）今回の分析結果をみてみると、大部分の瓦については寺領廃寺跡の瓦に類似していると思われるが、Ⅱタイプの丸瓦やＩタイプの平瓦などの一部の瓦では旧幡豆郡の北迫瓦窯跡・寺部堂前遺跡・鳥羽神宮寺跡の瓦に共通点が見られるようにも考えられる。

また、古新田遺跡から出土した瓦の中で、軒丸瓦の瓦当部分が７点と、軒平瓦と思われる瓦片が数点確認されている（図７）。軒丸瓦の瓦当面は大きく２つに分けられる。まず１つ目は１～３（図７）で、半球状の中房をもつ素弁蓮華文の土師質の軒丸瓦で、三角形の間弁や周囲に圏線をもち､周縁は無文と思われる。ただし、瓦当面裏下半部に周縁状の突帯があったのかについては摩滅が激しく不明である。一応北野廃寺系の軒丸瓦とみることができる。類例を探したところ豊川市の三河国府跡で出土した軒丸瓦

(註７) 名古屋市博物館梶山氏やかわら美術館天野氏のご教示による。

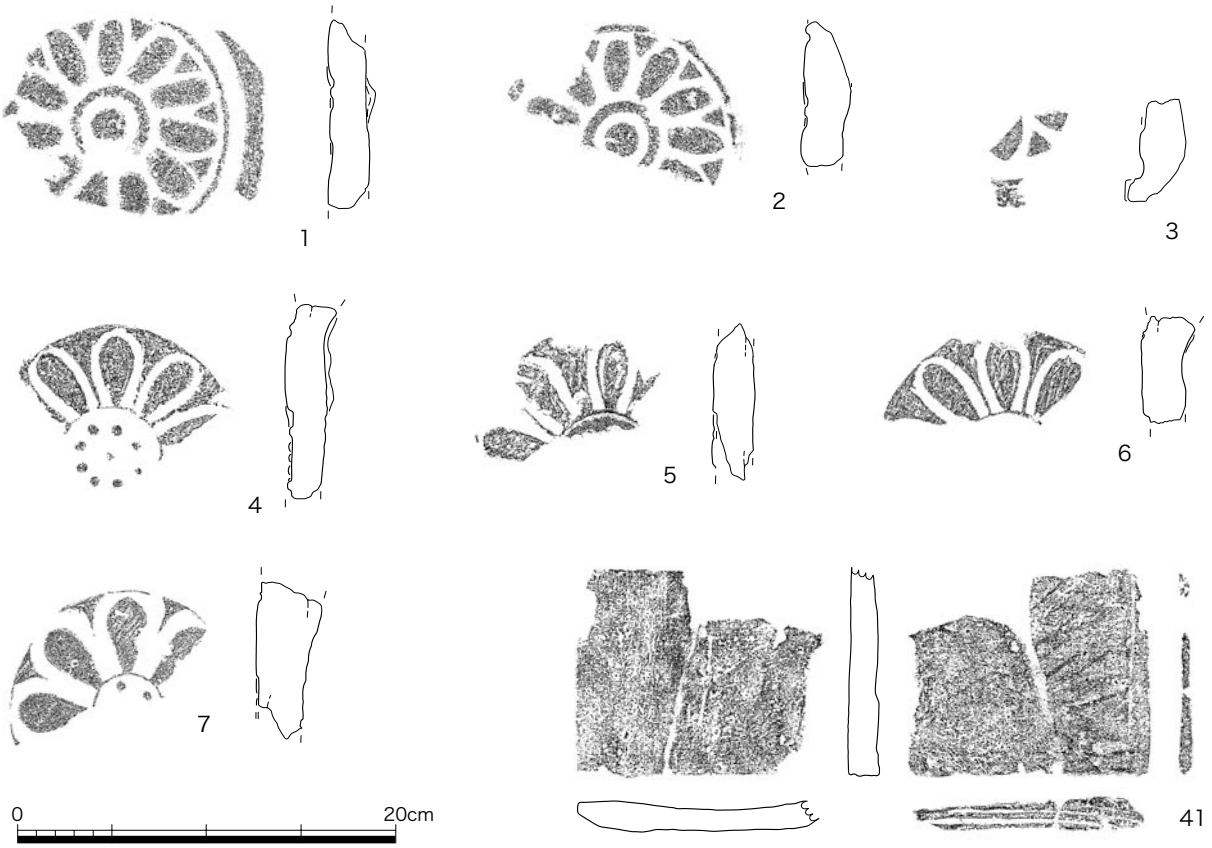

図７ 古新田遺跡出土の軒丸瓦・軒平瓦 (報告書より転載、一部改変)

が類似しているが、蓮華文の葉の数や間弁が丸形と三角形という違いがみられる。これは、矢作川流域で盛んに作られていた北野廃寺系の軒丸瓦が三河国府に影響を与え、さらに三河国府から古新田遺跡で出土した軒丸瓦に伝えられたものと考えられる。（註８）このような例は他にも見られる。例えば、安城市の寺領廃寺跡でみられる波状文（鋸歯文）に珠点を配した軒平瓦が豊橋市の市道遺跡で出土していることや、小坂井町の医王寺跡でみられる型押し廉状文の軒平瓦が幡豆町の寺部堂前遺跡で出土していることなどがあげられる。今回の胎土分析の結果からそれぞれの瓦の胎土が異なっていることは明らかであり、西三河で作られた瓦が東三河に持ち込まれたのではなく、工人や技術（瓦の笵など）が移動したことを示していると思われる。古新田遺跡で出土したこれらの瓦は、東三河から逆輸入された工人・技術により作られたこととなる。時期的にもよくわかっていないが、三河国府跡より新しい段階の瓦と考えられる。（註９）この軒丸瓦は、周辺の寺院跡から確認されていないことから、存在に不明な点が多いが志貴野廃寺の屋根を飾っていた瓦と考えることも可能である。２つ目は４～７（図７）で、一部に単弁が見られる素弁蓮華文の文様をもち、中房には蓮子が配置された須恵質の軒丸瓦である。周囲に布目痕が確認されていることから、側板連結模骨の丸瓦を接合させていたと思われる。これらの軒丸瓦は、寺領廃寺跡出土の軒丸瓦と類似性が高い。さらに、西尾市資料館に所蔵されている大郷瓦窯から出土したといわれる軒丸瓦を見せていただいた時に、４（図７）の軒丸瓦と酷似しており、これらの軒丸瓦が大郷瓦窯で作られた可能性が高いと考えるようになった。今回胎土分析を実施してはいないが、大郷瓦窯が寺領廃寺に瓦を供給していたと

(註８)（註９） 名古屋市博物館梶山氏やかわら美術館天野氏のご教示による。

表1 分析瓦一覧表

資料名			古代瓦					タイプ分類	組成分類	分析試料番号
遺跡試料No	遺跡場所	旧郡	瓦種	材質	凹面	凸面	備考			
北野廃寺－1	岡崎市	旧碧海郡	軒丸瓦	土師質	－	－		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－1
北野廃寺－2	岡崎市	旧碧海郡	軒丸瓦	土師質	－	－		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－2
北野廃寺－3	岡崎市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	IVタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－3
北野廃寺－4	岡崎市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		G	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－4
北野廃寺－5	岡崎市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－5
北野廃寺－6	岡崎市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		F	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－6
北野廃寺－7	岡崎市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ		G	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－7
北野廃寺－8	岡崎市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕＋ナデか	ナデ		I	IVタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－8
北野廃寺－9	岡崎市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	格子目叩き		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－9
北野廃寺－10	岡崎市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕か	縄目叩き		I	IVタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－10
北野廃寺－11	岡崎市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕＋ナデ	ナデ		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－11
北野廃寺－12	岡崎市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	ナデか		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－12
北野廃寺－13	岡崎市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	IVタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－13
北野廃寺－14	岡崎市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	IVタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－14
北野廃寺－15	岡崎市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕か	格子目叩き		G	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－15
北野廃寺－16	岡崎市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	格子目叩き		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－16
北野廃寺－17	岡崎市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕か	縄目叩き		G	IIIタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－17
北野廃寺－18	岡崎市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	縄目叩き		G	IIIタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－18
真福寺東谷－1	岡崎市	旧額田郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	IIIタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－19
真福寺東谷－2	岡崎市	旧額田郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	IVタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－20
真福寺東谷－3	岡崎市	旧額田郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－21
真福寺東谷－4	岡崎市	旧額田郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕か	ナデか		G	IVタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－22
真福寺東谷－5	岡崎市	旧額田郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	IVタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－23
真福寺東谷－6	岡崎市	旧額田郡	平瓦	土師質	布目痕か	格子目叩きか		G	Iタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－24
真福寺東谷－7	岡崎市	旧額田郡	平瓦	土師質	布目痕か	ナデか		G	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－25
真福寺東谷－8	岡崎市	旧額田郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕か	縄目叩き		G	IVタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－26
真福寺東谷－9	岡崎市	旧額田郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		G	Iタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－27
真福寺東谷－10	岡崎市	旧額田郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		G	Iタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－28
丸山廃寺－1	岡崎市	旧額田郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－29
丸山廃寺－2	岡崎市	旧額田郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－30
丸山廃寺－3	岡崎市	旧額田郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－31
丸山廃寺－4	岡崎市	旧額田郡	平瓦	土師質	布目痕か	縄目叩きか		G	IIIタイプ：その他	古新田－32
丸山廃寺－5	岡崎市	旧額田郡	平瓦	土師質	布目痕	－		E	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－33
丸山廃寺－6	岡崎市	旧額田郡	平瓦	土師質	布目痕か	縄目叩きか		G	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－34
伊保白鳳寺－1	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		G	Iタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－35
伊保白鳳寺－2	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		I	Iタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－36
伊保白鳳寺－3	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		H	IIIタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－37
伊保白鳳寺－4	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		A	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－38
伊保白鳳寺－5	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデか		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－39
伊保白鳳寺－6	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－40
伊保白鳳寺－7	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		G	IIIタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－41
伊保白鳳寺－8	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き＋ナデか		I	IVタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－42
伊保白鳳寺－9	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き＋ナデか		I	Vタイプ：Qt－大・PI－低	古新田－43
伊保白鳳寺－10	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－44
伊保白鳳寺－11	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	縄目叩き		D	IIIタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－45
伊保白鳳寺－12	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き＋ナデ		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－46
伊保白鳳寺－13	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	格子目叩き		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－47
伊保白鳳寺－14	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き＋ナデか		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－48
伊保白鳳寺－15	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－49
伊保白鳳寺－16	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕＋ナデか	縄目叩き		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－50
伊保白鳳寺－17	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		I	Iタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－51
伊保白鳳寺－18	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	ナデか	縄目叩き		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－52
伊保白鳳寺－19	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－53
伊保白鳳寺－20	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	縄目叩き		F	IIIタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－54
牛寺廃寺－1	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	布目痕＋ナデか	ナデか		C	IVタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－55
牛寺廃寺－2	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		F	IVタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－56
牛寺廃寺－3	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		G	IVタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－57
牛寺廃寺－4	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		G	IVタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－58
牛寺廃寺－5	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕か	格子目叩き		F	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－59
牛寺廃寺－6	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕	格子目叩き		G	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－60
牛寺廃寺－7	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕か	格子目叩き		F	IIIタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－61
牛寺廃寺－8	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕か	格子目叩き		F	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－62
牛寺廃寺－9	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕	格子目叩き		E	IVタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－63
牛寺廃寺－10	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕	格子目叩き		F	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－64
雨掘瓦窯－1	西尾市	旧碧海郡(註10)	丸瓦	土師質	布目痕＋ナデか	ナデか		G	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－71
雨掘瓦窯－2	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		G	Iタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－72
雨掘瓦窯－3	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－73
雨掘瓦窯－4	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		C	IIIタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－74
雨掘瓦窯－5	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		I	IVタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－75
雨掘瓦窯－6	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	模骨痕・ナデか	縄目叩き＋ナデか		G	IVタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－76
志貴野－1	西尾市	旧碧海郡(註11)	丸瓦	土師質	ナデか	ナデか		G	IIIタイプ：Qt－小中・PI－高	古新田－77
志貴野－2	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	ナデか	ナデか		E	Iタイプ：Qt－小中・PI－高	古新田－78
志貴野－3	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		G	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－79
志貴野－4	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－80
志貴野－5	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ＋ケズリ		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－81
志貴野－6	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－82
志貴野－7	西尾市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－83
志貴野－8	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		C	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－84
志貴野－9	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕か	縄目叩き		D	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－85
志貴野－10	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	格子目叩き		G	IIIタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－86
志貴野－11	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	ナデか	格子目叩き		I	IIIタイプ：Qt－小中・PI－高	古新田－87
志貴野－12	西尾市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	格子目叩き＋ナデか		I	Iタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－88
北迫瓦窯－1	幡豆町	旧幡豆郡	軒平瓦	土師質	布目痕	－		I	IVタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－89
北迫瓦窯－2	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		A	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－90
北迫瓦窯－3	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き＋ナデか		I	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－91
北迫瓦窯－4	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		B	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－92
北迫瓦窯－5	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		B	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－93
北迫瓦窯－6	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		A	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－94
北迫瓦窯－7	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	縄目叩き＋ナデか		A	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－95
北迫瓦窯－8	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	IVタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－96
北迫瓦窯－9	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	縄目叩き		C	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－97
北迫瓦窯－10	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	縄目叩き		A	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－98
北迫瓦窯－11	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き		I	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－99
北迫瓦窯－12	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	IVタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－100
北迫瓦窯－13	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	ナデ・模骨痕	縄目叩き		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－101
北迫瓦窯－14	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	布目痕	ナデ		C	IIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－102
北迫瓦窯－15	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	ナデ	縄目叩き		I	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－103
北迫瓦窯－16	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き＋ナデ		C	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－104
北迫瓦窯－17	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	ナデ	縄目叩き		I	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－105
寺部堂前－1	幡豆町	旧幡豆郡	軒平瓦	須恵質	－	－		I	IIIタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－106
寺部堂前－2	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－107
寺部堂前－3	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	縄目叩き＋ナデ		A	IIIタイプ：Qt－中・PI－低	古新田－108
寺部堂前－4	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		C	IIIタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－109
寺部堂前－5	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ	玉縁	C	IIIタイプ：その他	古新田－110
寺部堂前－6	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	ナデ・模骨痕	ナデ		C	IIIタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－111
寺部堂前－7	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	ナデ	縄目叩き		C	IIIタイプ：Qt－中・PI－高	古新田－112
寺部堂前－8	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	縄目叩き＋ナデ		I	Vタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－113
寺部堂前－9	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		C	Iタイプ：Qt－小・PI－低	古新田－114
寺部堂前－10	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	ナデ	縄目叩き		C	IIタイプ：Qt－大・PI－低	古新田－115
寺部堂前－11	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	縄目叩き＋ナデ		C	IIIタイプ：Qt－小・PI－高	古新田－116

資料名			古代瓦					タイプ分類	組成分類	分析試料番号
遺跡試料No	遺跡場所	旧郡	瓦種	材質	凹面	凸面	備考			
鳥羽神宮寺－１	幡豆町	旧幡豆郡	軒丸瓦	須恵質	－	－		C	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－１１７
鳥羽神宮寺－２	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ	軒丸瓦か	C	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１１８
鳥羽神宮寺－３	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデか		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１１９
鳥羽神宮寺－４	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		C	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１２０
鳥羽神宮寺－５	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	縄目叩き＋ナデ		C	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１２１
鳥羽神宮寺－６	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕＋ナデ	ナデ		B	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１２２
鳥羽神宮寺－７	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き		E	Ⅰタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１２３
鳥羽神宮寺－８	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１２４
鳥羽神宮寺－９	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		C	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１２５
鳥羽神宮寺－１０	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	布目痕＋ナデ	縄目叩き		C	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１２６
鳥羽神宮寺－１１	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕＋ナデか	縄目叩き		C	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１２７
別郷廃寺－１	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き＋ナデ	玉縁	I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１４８
別郷廃寺－２	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１４９
別郷廃寺－３	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	ナデか	ナデか	玉縁	G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高	古新田－１５０
別郷廃寺－４	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１５１
別郷廃寺－５	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	平行叩き		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１５２
別郷廃寺－６	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕か	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１５３
別郷廃寺－７	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	平行叩き		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１５４
別郷廃寺－８	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕＋ナデ	平行叩き＋ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１５５
別郷廃寺－９	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	平行叩き		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１５６
大久根－１	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１５７
大久根－２	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１５８
大久根－３	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	模骨痕	ナデ		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１５９
大久根－４	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕＋ナデ	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１６０
大久根－５	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕＋ナデ	ナデか		F	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－１６１
大久根－６	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低	古新田－１６２
寺領廃寺－１	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１６３
寺領廃寺－２	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高	古新田－１６４
寺領廃寺－３	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか	玉縁	G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高	古新田－１６５
寺領廃寺－４	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１６６
寺領廃寺－５	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ	玉縁	G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高	古新田－１６７
寺領廃寺－６	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高	古新田－１６８
寺領廃寺－７	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	縄目叩き＋ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－１６９
寺領廃寺－８	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		G	Ⅴタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－１７０
寺領廃寺－９	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１７１
寺領廃寺－１０	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデか		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－１７２
寺領廃寺－１１	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１７３
寺領廃寺－１２	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高	古新田－１７４
寺領廃寺－１３	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	縄目叩き＋ナデか		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１７５
寺領廃寺－１４	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		H	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－１７６
寺領廃寺－１５	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高	古新田－１７７
寺領廃寺－１６	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	ナデか		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－１７８
寺領廃寺－１７	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１７９
寺領廃寺－１８	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕＋ナデか	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１８０
寺領廃寺－１９	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１８１
寺領廃寺－２０	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－１８２
神明瓦窯－１	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	ナデ	ナデ		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１８３
神明瓦窯－２	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１８４
神明瓦窯－３	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデか		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１８５
神明瓦窯－４	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１８６
神明瓦窯－５	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－１８７
神明瓦窯－６	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		E	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１８８
神明瓦窯－７	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１８９
神明瓦窯－８	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		F	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１９０
神明瓦窯－９	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１９１
神明瓦窯－１０	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕か	ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１９２
神明瓦窯－１１	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－１９３
神明瓦窯－１２	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１９４
神明瓦窯－１３	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕か	ナデ		G	Ⅴタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１９５
神明瓦窯－１４	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１９６
神明瓦窯－１５	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１９７
舞木廃寺－１	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ	軒丸瓦か	I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－１９８
舞木廃寺－２	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデか		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－１９９
舞木廃寺－３	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２００
舞木廃寺－４	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２０１
舞木廃寺－５	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕か	格子目叩き		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２０２
舞木廃寺－６	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	格子目叩き		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２０３
舞木廃寺－７	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕＋ナデ	ナデ		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２０４
勤学院文護寺－１	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	ナデか	ナデ		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２０５
勤学院文護寺－２	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	格子目叩き＋ナデか		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２０６
勤学院文護寺－３	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデか		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２０７
下り松瓦窯－１	三好町	旧賀茂郡	軒丸瓦	須恵質	布目痕	－		I	Ⅴタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低	古新田－２０８
下り松瓦窯－２	三好町	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	縄目叩き＋ナデ		I	Ⅴタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低	古新田－２０９
下り松瓦窯－３	三好町	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	ナデか	ナデか		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低	古新田－２１０
下り松瓦窯－４	三好町	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	ナデか	ナデか		I	Ⅴタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低	古新田－２１１
下り松瓦窯－５	三好町	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I	Ⅴタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２１２
下り松瓦窯－６	三好町	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	縄目叩き		I	Ⅴタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低	古新田－２１３
下り松瓦窯－７	三好町	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕か	縄目叩き		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低	古新田－２１４
下り松瓦窯－８	三好町	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	縄目叩き＋ナデか		I	Ⅴタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２１５
下り松瓦窯－９	三好町	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	縄目叩き		I	Ⅴタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低	古新田－２１６
下り松瓦窯－１０	三好町	旧賀茂郡	平瓦	土師質	ナデか	縄目叩き		I	Ⅳタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低	古新田－２１７
下り松瓦窯－１１	三好町	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	Ⅴタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２１８
下り松瓦窯－１２	三好町	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	縄目叩き		I	Ⅴタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低	古新田－２１９
古新田－１	西尾市	旧碧海郡(註12)	丸瓦	須恵質	布目痕＋ナデ	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２４０
古新田－２	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕か	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高	古新田－２４１
古新田－３	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２４２
古新田－４	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	ナデか	ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－２４３
古新田－５	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G	Ⅱタイプ：その他	古新田－２４４
古新田－６	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－２４５
古新田－７	西尾市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデか		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２４６
古新田－８	西尾市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２４７
古新田－９	西尾市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕＋ナデ	縄目叩き		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２４８
古新田－１０	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	縄目叩き		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２４９
古新田－１１	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	格子目叩き		I	Ⅰタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２５０
古新田－１２	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	格子目叩き＋ナデか		G	Ⅰタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２５１
古新田－１３	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	模骨痕	ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２５２
古新田－１４	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		I	Ⅰタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２５３
古新田－１５	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低	古新田－２５４
古新田－１６	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	ナデか	ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高	古新田－２５５
古新田－１７	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	Ⅰタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２５６
古新田－１８	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２５７
古新田－１９	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕か	ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低	古新田－２５８
古新田－２０	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土師質	ナデか	ナデか		G	Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高	古新田－２５９

(註10)・(註11)・(註12)本来西尾市志貴野町・米津町は旧幡豆郡といわれている。しかし、旧幡豆郡とする根拠は明らかにされてはいない。現在の矢作川や市域が区画の根拠になっているように思われるが、これは江戸時代初頭に開削された新しい川であり、集落や寺院があったと思われる古代には対岸の安城市から延びる碧海台地と地続きとなっていたのである。この点から、旧幡豆郡ではなく旧碧海郡と考える方が自然だと思っている。なお、郡の境界は八ツ面山周辺と推定しておきたい。

表２ 組成分類表

遺跡試料Ｎｏ	遺跡場所	瓦　種	タイプ分類	備考(分析試料番号)
Ⅰタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高				
伊保白鳳寺－１	豊田市	丸瓦	G	古新田－３５
伊保白鳳寺－２	豊田市	丸瓦	I	古新田－３６
Ⅰタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高				
雨掘瓦窯－２	西尾市	丸瓦	G	古新田－７２
Ⅰタイプ：Ｑｔ－小中・ＰＩ－高				
志貴野－２	西尾市	丸瓦	E	古新田－７８
Ⅰタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低				
北迫瓦窯－２	幡豆町	丸瓦	A	古新田－９０
北迫瓦窯－３	幡豆町	丸瓦	I	古新田－９１
北迫瓦窯－４	幡豆町	丸瓦	B	古新田－９２
北迫瓦窯－６	幡豆町	丸瓦	A	古新田－９４
Ⅰタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高				
真福寺東谷－６	岡崎市	平瓦	G	古新田－２４
真福寺東谷－９	岡崎市	平瓦	G	古新田－２７
真福寺東谷－１０	岡崎市	平瓦	G	古新田－２８
Ⅰタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高				
伊保白鳳寺－１７	豊田市	平瓦	I	古新田－５１
Ⅰタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低				
志貴野－９	西尾市	平瓦	D	古新田－８５
北迫瓦窯－７	幡豆町	平瓦	A	古新田－９５
北迫瓦窯－１１	幡豆町	平瓦	I	古新田－９９
北迫瓦窯－１５	幡豆町	平瓦	I	古新田－１０３
北迫瓦窯－１６	幡豆町	平瓦	C	古新田－１０４
北迫瓦窯－１７	幡豆町	平瓦	I	古新田－１０５
寺部堂前－９	幡豆町	平瓦	C	古新田－１１４
古新田－１２	西尾市	平瓦	G	古新田－２５１
古新田－１４	西尾市	平瓦	I	古新田－２５３
古新田－１７	西尾市	平瓦	G	古新田－２５６
Ⅰタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低				
志貴野－１２	西尾市	平瓦	I	古新田－８８
鳥羽神宮寺－７	幡豆町	平瓦	E	古新田－１２３
古新田－１１	西尾市	平瓦	I	古新田－２５０
Ⅱタイプ：その他				
古新田－５	西尾市	丸瓦	G	古新田－２４４
Ⅱタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低				
北迫瓦窯－１４	幡豆町	平瓦	C	古新田－１０２
Ⅱタイプ：Ｑｔ－大・ＰＩ－低				
寺部堂前－１０	幡豆町	平瓦	C	古新田－１１５
Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高				
伊保白鳳寺－７	豊田市	丸瓦	G	古新田－４１
寺部堂前－４	幡豆町	丸瓦	C	古新田－１０９
別郷廃寺－３	安城市	丸瓦	G	古新田－１５０
寺領廃寺－２	安城市	丸瓦	I	古新田－１６４
寺領廃寺－５	安城市	丸瓦	G	古新田－１６７
古新田－２	西尾市	丸瓦	I	古新田－２４１
Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高				
真福寺東谷－１	岡崎市	丸瓦	G	古新田－１９
伊保白鳳寺－３	豊田市	丸瓦	H	古新田－３７
寺部堂前－６	幡豆町	丸瓦	C	古新田－１１１
寺領廃寺－７	安城市	丸瓦	G	古新田－１６９
寺領廃寺－１０	安城市	丸瓦	I	古新田－１７２
古新田－４	西尾市	丸瓦	G	古新田－２４３
古新田－６	西尾市	丸瓦	G	古新田－２４５
Ⅲタイプ：Ｑｔ－小中・ＰＩ－高				
志貴野－１	西尾市	丸瓦	G	古新田－７７
Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低				
丸山廃寺－３	岡崎市	丸瓦	I	古新田－３１
伊保白鳳寺－４	豊田市	丸瓦	A	古新田－３８
伊保白鳳寺－５	豊田市	丸瓦	I	古新田－３９
伊保白鳳寺－６	豊田市	丸瓦	I	古新田－４０
伊保白鳳寺－１９	豊田市	丸瓦	I	古新田－５３
志貴野－３	西尾市	丸瓦	G	古新田－７９
北迫瓦窯－５	幡豆町	丸瓦	B	古新田－９３

遺跡試料Ｎｏ	遺跡場所	瓦　種	タイプ分類	備考(分析試料番号)
鳥羽神宮寺－２	幡豆町	丸瓦	C	古新田－１１８
鳥羽神宮寺－４	幡豆町	丸瓦	C	古新田－１２０
鳥羽神宮寺－５	幡豆町	丸瓦	C	古新田－１２１
鳥羽神宮寺－６	幡豆町	丸瓦	B	古新田－１２２
寺領廃寺－４	安城市	丸瓦	I	古新田－１６６
寺領廃寺－９	安城市	丸瓦	G	古新田－１７１
Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－低				
北野廃寺－４	岡崎市	丸瓦	G	古新田－４
北野廃寺－５	岡崎市	丸瓦	I	古新田－５
北野廃寺－６	岡崎市	丸瓦	F	古新田－６
北野廃寺－７	岡崎市	丸瓦	G	古新田－７
北野廃寺－９	岡崎市	丸瓦	I	古新田－９
真福寺東谷－３	岡崎市	丸瓦	I	古新田－２１
丸山廃寺－１	岡崎市	丸瓦	I	古新田－２９
丸山廃寺－２	岡崎市	丸瓦	I	古新田－３０
雨掘瓦窯－１	西尾市	丸瓦	G	古新田－７１
雨掘瓦窯－３	西尾市	丸瓦	I	古新田－７３
志貴野－４	西尾市	丸瓦	I	古新田－８０
志貴野－５	西尾市	丸瓦	I	古新田－８１
志貴野－６	西尾市	丸瓦	I	古新田－８２
寺部堂前－２	幡豆町	丸瓦	I	古新田－１０７
寺部堂前－３	幡豆町	丸瓦	A	古新田－１０８
神宮寺－３	幡豆町	丸瓦	I	古新田－１１９
大久根－２	安城市	丸瓦	I	古新田－１５８
大久根－３	安城市	丸瓦	G	古新田－１５９
寺領廃寺－１	安城市	丸瓦	I	古新田－１６３
古新田－１	西尾市	丸瓦	I	古新田－２４０
古新田－３	西尾市	丸瓦	G	古新田－２４２
Ⅲタイプ：その他				
寺部堂前－５	幡豆町	丸瓦	C	古新田－１１０
Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－高				
伊保白鳳寺－１１	豊田市	平瓦	D	古新田－４５
伊保白鳳寺－１２	豊田市	平瓦	I	古新田－４６
伊保白鳳寺－１４	豊田市	平瓦	I	古新田－４８
伊保白鳳寺－２０	豊田市	平瓦	F	古新田－５４
雨掘瓦窯－４	西尾市	平瓦	C	古新田－７４
志貴野－１０	西尾市	平瓦	G	古新田－８６
北迫瓦窯－１３	幡豆町	平瓦	I	古新田－１０１
寺部堂前－１１	幡豆町	平瓦	C	古新田－１１６
寺領廃寺－１２	安城市	平瓦	G	古新田－１７４
寺領廃寺－１５	安城市	平瓦	I	古新田－１７７
古新田－１６	西尾市	平瓦	G	古新田－２５５
Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰＩ－高				
北野廃寺－１１	岡崎市	平瓦	I	古新田－１１
北野廃寺－１７	岡崎市	平瓦	G	古新田－１７
北野廃寺－１８	岡崎市	平瓦	G	古新田－１８
牛寺廃寺－７	豊田市	平瓦	F	古新田－６１
寺部堂前－７	幡豆町	平瓦	C	古新田－１１２
大久根－５	安城市	平瓦	F	古新田－１６１
寺領廃寺－１４	安城市	平瓦	H	古新田－１７６
寺領廃寺－２０	安城市	平瓦	G	古新田－１８２
古新田－２０	西尾市	平瓦	G	古新田－２５９
Ⅲタイプ：Ｑｔ－小中・ＰＩ－高				
志貴野－１１	西尾市	平瓦	I	古新田－８７
Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰＩ－低				
伊保白鳳寺－１０	豊田市	平瓦	I	古新田－４４
伊保白鳳寺－１３	豊田市	平瓦	I	古新田－４７
伊保白鳳寺－１６	豊田市	平瓦	I	古新田－５０
志貴野－７	西尾市	平瓦	I	古新田－８３
志貴野－８	西尾市	平瓦	C	古新田－８４
北迫瓦窯－９	幡豆町	平瓦	C	古新田－９７
北迫瓦窯－１０	幡豆町	平瓦	A	古新田－９８
鳥羽神宮寺－８	幡豆町	平瓦	I	古新田－１２４
鳥羽神宮寺－１１	幡豆町	平瓦	C	古新田－１２７

すれば、これらの瓦は寺領廃寺の屋根を飾っていた瓦と考えることができる。軒平瓦については出土数が僅かであるために不明な点が多いが、41（図７）には端部に重弧文が施され、軒平瓦の一部と考えることができる。矢作川流域の寺院跡では、北野廃寺系の軒丸瓦と重弧文の軒平瓦が多く確認されていることからも、共通点があるように思われる。

軒瓦以外に、丸瓦と平瓦をみておく。出土した丸瓦は、行基葺きの粘土板作りで側板連結模骨を使用し、凸面をナデ調整などで叩き目痕を消しているものが多い。そのため、凸面にどのような叩き調整が行われていたのか確認することは困難である。玉縁式丸瓦は出土していな

遺跡試料Ｎｏ	遺跡場所	瓦　種	タイプ分類	備考 分析試料番号
別郷廃寺－５	安城市	平瓦	Ⅰ	古新田－１５２
別郷廃寺－７	安城市	平瓦	Ⅰ	古新田－１５４
別郷廃寺－８	安城市	平瓦	G	古新田－１５５
別郷廃寺－９	安城市	平瓦	G	古新田－１５６
寺領廃寺－１１	安城市	平瓦	Ⅰ	古新田－１７３
寺領廃寺－１９	安城市	平瓦	Ⅰ	古新田－１８１
舞木廃寺－６	豊田市	平瓦	Ⅰ	古新田－２０３
勧学院文護寺－２	豊田市	平瓦	Ⅰ	古新田－２０６
勧学院文護寺－３	豊田市	平瓦	Ⅰ	古新田－２０７
古新田－１３	西尾市	平瓦	G	古新田－２５２
古新田－１８	西尾市	平瓦	G	古新田－２５７
古新田－１９	西尾市	平瓦	G	古新田－２５８
Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰⅠ－低				
北野廃寺－１２	岡崎市	平瓦	Ⅰ	古新田－１２
北野廃寺－１５	岡崎市	平瓦	G	古新田－１５
北野廃寺－１６	岡崎市	平瓦	Ⅰ	古新田－１６
真福寺東谷－７	岡崎市	平瓦	G	古新田－２５
丸山廃寺－５	岡崎市	平瓦	E	古新田－３３
丸山廃寺－６	岡崎市	平瓦	G	古新田－３４
伊保白鳳寺－１５	豊田市	平瓦	Ⅰ	古新田－４９
伊保白鳳寺－１８	豊田市	平瓦	Ⅰ	古新田－５２
牛寺廃寺－５	豊田市	平瓦	F	古新田－５９
牛寺廃寺－６	豊田市	平瓦	G	古新田－６０
牛寺廃寺－８	豊田市	平瓦	F	古新田－６２
牛寺廃寺－１０	豊田市	平瓦	F	古新田－６４
鳥羽神宮寺－９	幡豆町	平瓦	C	古新田－１２５
鳥羽神宮寺－１０	幡豆町	平瓦	C	古新田－１２６
別郷廃寺－６	安城市	平瓦	Ⅰ	古新田－１５３
大久根－４	安城市	平瓦	Ⅰ	古新田－１６０
寺領廃寺－１３	安城市	平瓦	Ⅰ	古新田－１７５
寺領廃寺－１８	安城市	平瓦	Ⅰ	古新田－１８０
神明瓦窯－１０	豊田市	平瓦	G	古新田－１９２
神明瓦窯－１５	豊田市	平瓦	G	古新田－１９７
古新田－７	西尾市	平瓦	Ⅰ	古新田－２４６
古新田－８	西尾市	平瓦	Ⅰ	古新田－２４７
古新田－９	西尾市	平瓦	G	古新田－２４８
古新田－１０	西尾市	平瓦	G	古新田－２４９
古新田－１５	西尾市	平瓦	G	古新田－２５４
Ⅲタイプ：その他				
丸山廃寺－４	岡崎市	平瓦	G	古新田－３２
Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰⅠ－高				
鳥羽神宮寺－１	幡豆町	軒丸瓦	C	古新田－１１７
Ⅲタイプ：Ｑｔ－中・ＰⅠ－低				
北野廃寺－１	岡崎市	軒丸瓦	Ⅰ	古新田－１
北野廃寺－２	岡崎市	軒丸瓦	Ⅰ	古新田－２
Ⅲタイプ：Ｑｔ－小・ＰⅠ－低				
寺部堂前－１	幡豆町	軒平瓦	Ⅰ	古新田－１０６
Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰⅠ－高				
寺領廃寺－３	安城市	丸瓦	G	古新田－１６５
寺領廃寺－６	安城市	丸瓦	G	古新田－１６８
Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰⅠ－高				
真福寺東谷－４	岡崎市	丸瓦	G	古新田－２２
牛寺廃寺－１	豊田市	丸瓦	C	古新田－５５
牛寺廃寺－２	豊田市	丸瓦	F	古新田－５６
牛寺廃寺－３	豊田市	丸瓦	G	古新田－５７
神明瓦窯－５	豊田市	丸瓦	G	古新田－１８７
Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰⅠ－低				
北野廃寺－３	岡崎市	丸瓦	Ⅰ	古新田－３
北野廃寺－８	岡崎市	丸瓦	Ⅰ	古新田－８
真福寺東谷－５	岡崎市	丸瓦	Ⅰ	古新田－２３
別郷廃寺－１	安城市	丸瓦	Ⅰ	古新田－１４８
大久根－１	安城市	丸瓦	Ⅰ	古新田－１５７
神明瓦窯－１	豊田市	丸瓦	Ⅰ	古新田－１８３
舞木廃寺－１	豊田市	丸瓦	Ⅰ	古新田－１９８

遺跡試料Ｎｏ	遺跡場所	瓦　種	タイプ分類	備考 (分析試料番号)
Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰⅠ－低				
北野廃寺－１０	岡崎市	丸瓦	Ⅰ	古新田－１０
真福寺東谷－２	岡崎市	丸瓦	G	古新田－２０
牛寺廃寺－４	豊田市	丸瓦	G	古新田－５８
別郷廃寺－２	安城市	丸瓦	G	古新田－１４９
別郷廃寺－４	安城市	丸瓦	G	古新田－１５１
神明瓦窯－２	豊田市	丸瓦	Ⅰ	古新田－１８４
神明瓦窯－３	豊田市	丸瓦	Ⅰ	古新田－１８５
神明瓦窯－４	豊田市	丸瓦	Ⅰ	古新田－１８６
神明瓦窯－６	豊田市	丸瓦	E	古新田－１８８
神明瓦窯－７	豊田市	丸瓦	G	古新田－１８９
神明瓦窯－８	豊田市	丸瓦	F	古新田－１９０
神明瓦窯－９	豊田市	丸瓦	G	古新田－１９１
舞木廃寺－２	豊田市	丸瓦	Ⅰ	古新田－１９９
舞木廃寺－３	豊田市	丸瓦	Ⅰ	古新田－２００
勧学院文護寺－１	豊田市	丸瓦	Ⅰ	古新田－２０５
Ⅳタイプ：Ｑｔ－大・ＰⅠ－低				
下り松瓦窯－３	三好町	丸瓦	Ⅰ	古新田－２１０
Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰⅠ－高				
雨掘瓦窯－６	西尾市	平瓦	G	古新田－７６
Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰⅠ－高				
真福寺東谷－８	岡崎市	平瓦	G	古新田－２６
寺領廃寺－１６	安城市	平瓦	G	古新田－１７８
神明瓦窯－１１	豊田市	平瓦	G	古新田－１９３
Ⅳタイプ：Ｑｔ－小・ＰⅠ－低				
北野廃寺－１４	岡崎市	平瓦	Ⅰ	古新田－１４
伊保白鳳寺－８	豊田市	平瓦	Ⅰ	古新田－４２
舞木廃寺－５	豊田市	平瓦	Ⅰ	古新田－２０２
舞木廃寺－７	豊田市	平瓦	Ⅰ	古新田－２０４
Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰⅠ－低				
北野廃寺－１３	岡崎市	平瓦	Ⅰ	古新田－１３
牛寺廃寺－９	豊田市	平瓦	E	古新田－６３
雨掘瓦窯－５	西尾市	平瓦	Ⅰ	古新田－７５
北迫瓦窯－８	幡豆町	平瓦	Ⅰ	古新田－９６
北迫瓦窯－１２	幡豆町	平瓦	Ⅰ	古新田－１００
寺領廃寺－１７	安城市	平瓦	G	古新田－１７９
神明瓦窯－１２	豊田市	平瓦	G	古新田－１９４
神明瓦窯－１４	豊田市	平瓦	Ⅰ	古新田－１９６
舞木廃寺－４	豊田市	平瓦	G	古新田－２０１
Ⅳタイプ：Ｑｔ－大・ＰⅠ－低				
大久根－６	安城市	平瓦	G	古新田－１６２
下り松瓦窯－７	三好町	平瓦	Ⅰ	古新田－２１４
下り松瓦窯－１０	三好町	平瓦	Ⅰ	古新田－２１７
Ⅳタイプ：Ｑｔ－中・ＰⅠ－低				
北迫瓦窯－１	幡豆町	軒平瓦	Ⅰ	古新田－８９
Ⅴタイプ：Ｑｔ－中・ＰⅠ－高				
寺領廃寺－８	安城市	丸瓦	G	古新田－１７０
Ⅴタイプ：Ｑｔ－大・ＰⅠ－低				
下り松瓦窯－２	三好町	丸瓦	Ⅰ	古新田－２０９
下り松瓦窯－４	三好町	丸瓦	Ⅰ	古新田－２１１
Ⅴタイプ：Ｑｔ－小・ＰⅠ－低				
寺部堂前－８	幡豆町	平瓦	Ⅰ	古新田－１１３
Ⅴタイプ：Ｑｔ－中・ＰⅠ－低				
神明瓦窯－１３	豊田市	平瓦	G	古新田－１９５
下り松瓦窯－５	三好町	平瓦	Ⅰ	古新田－２１２
下り松瓦窯－８	三好町	平瓦	Ⅰ	古新田－２１５
下り松瓦窯－１１	三好町	平瓦	Ⅰ	古新田－２１８
Ⅴタイプ：Ｑｔ－大・ＰⅠ－低				
伊保白鳳寺－９	豊田市	平瓦	Ⅰ	古新田－４３
下り松瓦窯－６	三好町	平瓦	Ⅰ	古新田－２１３
下り松瓦窯－９	三好町	平瓦	Ⅰ	古新田－２１６
下り松瓦窯－１２	三好町	平瓦	Ⅰ	古新田－２１９
Ⅴタイプ：Ｑｔ－大・ＰⅠ－低				
下り松瓦窯－１	三好町	軒丸瓦	Ⅰ	古新田－２０８

い。また､出土した平瓦は粘土板桶巻き作りで、凸面に格子目叩き痕が残るものとナデ調整（ナデ消しを含む）したものに大きく分けることができる。これ以外に、平行叩き痕を残す瓦も僅かに確認されている。また、粘土板一枚作りで凸面に縄目叩き痕を残す瓦も出土している。志貴野廃寺跡から出土したといわれるほぼ完形の平瓦１枚と丸瓦２枚が『西尾市史』に紹介されている。平瓦・丸瓦ともに土師質の大形品で、丸瓦はともに行基葺丸瓦である。他に凸面に格子目叩き痕の残す平瓦片も採集されており、これらの瓦と古新田遺跡で出土した丸瓦・平瓦はともに類似性が高いと思われる。

古新田遺跡から出土した古代瓦は、一時期に

作られた瓦とは考えにくい。例えば、前述した須恵質の軒丸瓦（図７の４～７）では、間弁が中房まで繋がっているものや離れているものの違いがあり時期的な差を見出すことができ、他に土師質の軒丸瓦（図７の１～３）も確認されている。平瓦においても､凸面の調整において、ナデ調整（ナデ消しを含む）・縄目叩き・格子目叩きの違いがあり、一時期に調整の違う平瓦を焼いて寺院の屋根に葺いていたとは考えにくい。また、縄目叩き痕を残す平瓦は、製作技法も異なっている。そうすると、今回古新田遺跡から出土した古代瓦は、長い期間にわたって蓄積されてきたものであることがわかる。

最後に、大胆な推測をして小稿を終えたい。古新田遺跡の発掘調査によって、多くの古代瓦が出土し、その瓦が長期間にわたって蓄積されてきたことが確認された。また、本遺跡が大郷瓦窯跡や志貴野廃寺推定地の北側に位置していることを考えあわせてみると、古新田遺跡で検出された古代の竪穴住居に住んでいた人々は、何らかの形で瓦に関わっていたのではないかと推定しておきたい。

5 おわりに

以上、今回の胎土分析の結果から古新田遺跡から出土した古代瓦について考えてみた。今回の分析では、丸瓦や平瓦という瓦の種類や凸面の調整方法の違いから胎土が異なるのかということを主眼に分析結果を見てきたが、今回の結果だけでは明らかにすることはできなかった。これ以外にも、須恵質・土師質の違いや、瓦の大きさや厚さの違い、創建時の瓦と補修用の瓦の違いなど、分析の方法はいくらでもあるように思われる。しかし、今回の分析では、出土した瓦の全体量からいえばごく僅かでしかなく、表採資料などが多く含まれているため正確性に欠ける面があり、小稿の大半が推論の域を出ていない点が多く残念である。これからの分析結果の蓄積に期待していきたい。また、気づいていないことや間違っていることが多くみられるかもしれないが、それらはすべて瓦について知識の乏しい筆者の責任であることを付け加えておく。

最後になりましたが、今回の分析に快く資料を提供していただいた各資料館の方々、ご協力・ご助言をいただいた高浜市やきものの里かわら美術館の天野卓哉氏、ご教示いただいた本センター鬼頭剛氏に感謝の意を表します。

参考文献

稲垣晋也他 ,1991『北野廃寺』 岡崎市教育委員会。

梶山　勝 ,1997「西三河の古代寺院−北野廃寺系軒丸瓦を中心として−」『愛知県史研究　創刊号』「愛知県史」研究編集委員会・愛知県総務部県史編さん室。

小嶋廣也編 ,2003『木戸城・古新田遺跡』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 111 集 （財）愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター。

斎藤嘉彦他 ,1982『真福寺東谷遺跡』 岡崎市教育委員会。

前田清彦 ,1992「三河の古代寺院と瓦窯」『第９回東海埋蔵文化財研究会岐阜大会　古代仏教東へ−寺と窯−　1、寺院編』 東海埋葬文化財研究会実行委員会。

松井直樹 ,1990『志貴野遺跡』 西尾市教育委員会。

豊田市郷土史研究会 ,1978『豊田市埋蔵文化財調査集報　第六集　寺院址』 豊田市郷土資料館。

安城市史編さん委員会 ,1971『安城市史　本文編』

吉良町史編さん委員会 ,1996『吉良町史　原始・古代・中世前期』『猿投町誌』 猿投町誌編纂委員会

豊田市教育委員会・豊田市史編さん専門委員会 ,1976『豊田市史　一　自然・原始・古代・中世』

西尾市史編纂委員会 ,1974『西尾市史　二　古代・中世・近世上』